

議長（竹島ヨリ子君） 日程第1 一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

3番 山崎知信君。

3番（山崎知信君） おはようございます。山崎でございます。

私の一般質問は3点ほどございますけれども、私は6月にも最初にやりましたが、今も最初ということで、何か事務局長の嫌がらせじゃないかと思いますが、ひとつきょうはよろしくをお願いします。

ことしの秋は天候もよく、舟橋村の稲作作付面積140町の主力品種の120町のコシヒカリの刈り取りもほぼ終わり、あとは晩生のてんこもりと新大正糯を残すのみとなっております。私ども東和でも約13町のコシヒカリの刈り取りも終わり、よき組合長の指導のもと、単当たり10俵近い収穫があったかと聞いております。

さて、私の一般質問では、先般9月17日の村長の提案理由説明でもありましたが、昭和45年夏の集中豪雨以来の大きな被害がことしの夏もあり、今後の防災対策について2点の質問と、舟橋村南の玄関口（仮称）元気創造館について質問いたします。

まず、役場の車庫雨水処理用排水工事を補正予算、一般会計約65万円の修理費をかけておられますが、雨水対策について質問いたします。

さて、ことしの夏は集中豪雨に見舞われ、県内各地に大きな被害が出ました。我が村も例外ではなく、7月の豪雨で床下浸水が6件もあり、そのうち3件が東芦原地区でありました。地元住民からは、豪雨になると「心配で眠れない。どうかしてくれ」との多くの声を聞きます。

役場は、住民に安心・安全を約束する機関でなければいけません。ほかの自治体では、地下に雨水タンクを設け、集中豪雨への対策を講じています。富山市の森市長も、9月定例議会で豪雨による被害が出たことを受け、「市民の生命と財産を守るための施策を一層推進していかなければならない」と述べ、補正予算を計上し、防災対策を強化していく考えを示しています。我が村でも早急な雨水対策が必要だと思います。

それと村長は提案理由説明の中で、「村民の生命財産を守るために、安全・安心なまちづくりを一層推進していく」と述べておられますが、なぜ先行して役場の車庫の雨水処理用排水工事を補正予算を組んでまで修理したのか、村長の考えを伺います。

次に、地域防災計画の見直しについて伺います。

私は、過去、議会の一般質問では、防災備蓄保管庫の設置の必要性やデジタル防災無

線の検討についてなど防災に関する質問をしまいましたが、すべては地域防災計画の見直し時に検討するという村長の答えでした。

地球温暖化の影響で、今や災害対策は必要不可欠なものと考えます。今月16日に地域防災計画の入札が行われ、業者が決まりましたが、今後どのような形で計画策定を行うのかをお聞きします。

検討委員会なるものを立ち上げられるのか。年度ごとの事業計画などまで作成されるのか。当然、防災備品保管庫やデジタル防災無線の検討もされると思いますが、より具体的なものが必要だと思いますが、村長のお考えをお伺いします。

最後になりますが、舟橋村南玄関口の構想について副村長に伺います。

昨年9月の一般質問で、東芦原地区内の商業施設周辺を南の玄関口として位置づけ、村長の強い要望で副村長を中心としたプロジェクトを立ち上げ、商業施設のほかに舟橋村をアピールするロードサインや、村民同士の交流や周辺住民とのふれあいを視野に入れた地域オンリーワンを目指した施設整備も一つの案として検討していると回答していただいております。

どこかの町の議員みたいに場所に反対するのではなく、私はむしろ金森村長に期待するものであります。あれから1年がたちましたが、その構想はどこまで進んでいるのかをリーダーである副村長に、村民が期待する回答をお願いいたします。また、商業施設の村での雇用をどの程度考えておられるのかも伺いいたします。

以上でございます。

議長（竹島ユリ子君） 副村長 古越邦男君。

副村長（古越邦男君） 3番山崎議員のご質問にお答えしたいと思います。

議員には昨年よりこの開発計画につきまして、いろんな角度からご提言やご質問をいただいております。地元地区議員として地元の発展への期待の強さを改めて感じているところでございます。

ご質問の開発地区につきましては、平成17年3月に富立大橋が開通いたしまして、人、物の流れが大きく変わってまいりまして、開発区域を含めました周辺地域への関心度は格段に高まり商業立地環境としては大変すぐれた場所と言えらると思っております。

村は開発計画の実現に向けまして、昨年より関係者の方々とさまざまな検討を加えまして手続を進めてまいりました結果、ことし6月16日付で県からこの計画地に関する農業振興地域整備計画変更に係る同意が届いております。すぐに次の段階である農地転

用申請が提出されるものと期待しておりましたが、開発計画自体が隣接する立山町エリアも含めた計画へと発展し、現在レイアウトの最中であるということをお聞きしております。開発エリアが増え、当初計画よりも出店数が多くなれば、村民の多様な要望にもこたえられ、利用価値の高い施設として親しんでもらえるのではないかというふうを考えております。

また、計画地の東側300メートル地点には、県内最大級の露天風呂を備える天然温泉施設が平成21年7月のオープンを目指すという報道されております。舟橋村にはなかった施設でございまして、新たな地域資源として魅力十分な施設であるというふうに思っております。

ここ1年の間に経済社会情勢が大きく変化している中で、新たな可能性を求め開発計画も大きく変化発展したことは、このエリアが主要地方道富山立山魚津線と県道立山舟橋線、県道岩嶽寺大石原水橋線を有機的に結びつける魅力ある場所として認められているあかしであり、村の南の玄関口にふさわしい環境と言えらると思っております。

昨年、商業開発計画が発表されると村の玄関口としてアピールするためのロードサインや、あるいは地域オンリーワンを目指す施設整備が必要と、昨年9月議会で答弁されております。開発計画が発展いたしました現在、より一層その必要性が高まっているということは間違いございません。ただ、計画自体が動いている現状で計画の全体像が正式に示されておりませんし、立山町エリアも含まれております。農地転用申請、開発行為申請の中で全体像が明らかになってまいると思っております。それらを踏まえた中で村にふさわしい対応をとっていく必要があると考えております。

ただ、先般舟橋小学校の改修工事を2カ年継続事業として発注したばかりでございます。事業化には当然財源の裏づけが必要となっておりまして、財政環境を見極めながら進めてまいりたいと考えております。議員各位のご理解、ご協力をお願いしたいと思っております。

なお、商業施設の雇用ということでご質問がございましたが、現在、開発業者のほうからお聞きしている中では、村内の方々の雇用も十分考えた上での進出ということを考えているというふうに聞き及んでおりますので、進出された際、開店された際には、村内の方々の雇用もなされるものというふうに期待しております。

以上で答弁とさせていただきます。

議長（竹島ユリ子君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 3番山崎知信議員のご質問にお答えしたいと思います。

まず最初に、専決処分のことではありますが、実を言いますと、これは7月22日に専決させていただいたわけでございます。名称は役場車庫雨水処理用排水工事でございますけれども、これはご案内のとおり小学校が耐震補強ということで、まずは体育館のほうから工事を始めているわけでございます。体育館の下がピロティになっておりまして、あそこに村が管理しておりました埋蔵文化財の調査の機材というものがあつたわけでございます。そういった機材をどこに収納するかということで車庫の横に保管庫を設置いたしましてそこに保管しているわけでございます。そういったことも踏まえあの周辺に水たまりがかなり発生していたということもございまして、専決処分ですらさせていただいたということもございまして、ご指摘のとおり雨水対策がどうなのかということにもつながるかと思っておりますので、この点につきましてお答えしたいと思います。

議員ご指摘のとおり、7月8日未明の集中豪雨では、民家の床下浸水6棟や農業用水路、京坪川の法面の崩壊など、多大な被害が発生したところでございます。改めて被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げたいと思っております。

集中豪雨発生に伴う被災の原因といたしましては、地球規模の温暖化による異常気象という説もありますし、また、村内をはじめ上流地域では企業等の進出に伴う大規模な農地転用が進んできたことも間接的な要因でなかろうかと思っております。

本村はご承知のとおり地形上村外から流入する幹線用排水路の末端に位置しておりますので、村内を貫流する京坪川、細川、八幡川に合流した水は白岩川へと流出しているところでございます。このことから、大雨になりますと河川が増水いたしまして溢水の危険があるというのが実態だと思っております。

こういった現状を踏まえまして、県レベルで白岩川改修促進期成同盟会というものがございまして、そこで改修の促進を図るようということで要望なりいろいろやっているわけですが、なかなか一気に事業が進むということはないようでございます。現在の状況把握といいますが、各地区で幹線用排水路がどのように管理されているか、あるいはその水がどのように流れているか、大雨のときにどうなるかというような初歩的なことではございますが、そういったことを調査いたしまして、これからの安全性を保持するためにどのような施策をとればいいのかという基礎調査が大切でなかろうかと思っております。そういった調査は今年度内に始めさせていただきたいと思っておりますので、議員の皆さんのご理解をいただきたいと思うわけでございます。

そこで、大規模な開発行為についての本村の雨水に関する指導がどうなっているのかについて申し上げたいと思います。

建物を建てるための造成は開発行為になるわけでございますけれども、これは都市計画法に基づきまして、本村の場合ですと3,000平米以上になると開発許可が必要となっておりまして、本村では申請があった場合には、雨水対策等の指導も行っているわけございまして、造成地に降った雨が急激に排出されて洪水を引き起こさないよう調整池を設けるなど、造成前の農地と同様に緩やかに排水が行われるよう指導しているところでございます。

都市計画法では、5年に一度の確率で降る大雨（1時間の降雨量46ミリ程度）に対処できればいいとされておりますが、こういった指導基準は市町村で決めることになっておりますので、近年のゲリラ的な豪雨などでも対応できるよう指導することが可能となっておりますので、開発の規模や周囲の用排水路の状況などを勘案いたしまして、今後も的確に指導してまいる所存でありますので、どうかご理解のほどお願いしたいと思います。

いずれにいたしましても、村民の安全・安心の確保のためにも、そういった対策に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

次に、地域防災計画についてのご質問にお答えしたいと思います。

地域防災計画につきましては、ご案内のとおり災害対策基本法第42条の規定に基づくものであり、舟橋村防災会議が策定する計画は村、関係機関、住民等がその全機能を発揮し、相互に有機的な関連を持って村の地域にかかわる災害予防、災害応急対策及び災害復旧を実施することによりまして、村域における土地の保全と住民の生命、財産を保護することを目的にしておるわけでございます。

議員ご指摘のとおり、本年度は現有計画を見直すことになっております。これまで県内外でこういった計画に携わった実績のある業者を調査いたしまして、9月1日に入札参加業者指名委員会において5社を指名いたしまして、去る16日に指名競争入札の執行により業者が決定した次第であります。

今後は、委託業者も決まりましたので、速やかに防災会議を開催いたしまして、議員ご指摘のとおり防災備品保管庫の設置やデジタル防災無線導入の有無につきまして検討を行い、近年頻発している災害に対応できる体制を構築してまいりたいと考えております。

また最近では、短時間に局地的な大雨が降ることによりまして浸水被害が多発しておりますので、本村の対応といたしましては、職員の非常呼集システム導入費を今回の補正予算で計上させていただきました。災害発生時には、いち早く職員が現場に向かえる体制を進めてまいりたいと考えております。

また、防災会議の委員には、主たる行政機関職員や指定地方公共機関の職員、警察、消防団長などが挙げられますが、地域の実情を具体的に反映させるためにも、住民代表の方を委員に任命いたしまして、より地域住民と密着した計画にいたしたいと考えております。

また、災害用の備蓄品等につきましても、本計画の中で年次別事業計画を策定いたしまして、整備を図ってまいりる所存であります。

議員の皆様方には、災害発生時には地区のリーダーになっていただくとともに、住民の方への防災意識の向上にもご協力を賜りますようお願い申し上げます、私の答弁にかえさせていただきたいと思っております。よろしくようお願い申し上げます。

議長（竹島ヨリ子君） 山崎知信君。

3番（山崎知信君） 再質問をしたいと思います。

舟橋村の南の玄関口についてですけれども、副村長の答弁では商業施設云々かんぬん進捗状況を述べておられますが、村長就任以来、あそこの商業地域の開発をどうするのかといったときに、私は北は舟橋駅の玄関だと。南にどうしてもそういうコミュニティーや何か村のためになるような施設をつくりたいということで、1年前からそういう構想が上がってきたのであって、今さら小学校の増築、改築の財源が云々かんぬんではないでしょう。それはもっと前からわかっている話なんで、具体的に元気創造館がどこまで進んでいるのか。話に聞くと、保育所の前の太鼓の施設も大分老朽化しておりますので、冗談であそこへ行ったらどうか、あそこなら太鼓たたいておってもやかましくないという議員たちの冗談の話もあったんですけれども、1年前から計画して、何遍もプロジェクトを組んで、今さら世間はこうだというのは答弁にならないと思っておりますので、再答弁をお願いしたいと思います。

以上です。

議長（竹島ヨリ子君） 副村長 古越邦男君。

副村長（古越邦男君） 山崎議員の再質問にお答えをさせていただきます。

南の玄関口として昨年来計画があったのは具体的にどうなっているのかということの

再質問ということになると思っております。

先ほども申し上げましたとおり、現在計画が進行中でございます。その計画の進行を見極めながら具体的な対応ということで今後取り組みをしていかざるを得ないと。要するに先ほども申し上げましたとおり、大変魅力的なエリアでありまして、そのエリアにふさわしい形のものをということで考えていかざるを得ないというふうに思っておりますので、皆様方のお力をおかりをしながら、より舟橋村の南の玄関口としてふさわしい内容のものとして取り組みをしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いたします。

議長（竹島ヨリ子君） 山崎知信君。

3番（山崎知信君） 今の答弁でちょっとわからないんですけども、1年前から一生懸命やって、今より内容的に濃いものをつくりたいとはどういうことでしょうか。1年間のことはどこへ飛んで行ったのか。どのような計画で、どのような構想があって、これからどうしようと思っているのかを再度お聞きします。

議長（竹島ヨリ子君） 副村長 古越邦男君。

副村長（古越邦男君） 1年間どうだったのかということでございます。いろいろ庁内でもこうすればいいんじゃないか、ああすればいいんじゃないかという検討は重ねたわけでございますが、具体的に何々をするというところまでは至っておりません。その中で先ほども言いましたとおり、よりふさわしい村の玄関口としての対応を今後やってまいりたいということでございますので、ご理解を賜りたいと思います。